



「朝一番の太陽」西野真優子 (本学文学部学生 / tachibana photo)

平安の昔から、  
「昔の人」の懐かしい思い出を  
呼びおこすとされた橋の花の香り。  
その橋を最も好んだ「時の鳥 (ホトトギス)」。  
「CHRONOS 時の鳥」は、  
ギリシア神話の「時の神」クロノスを頭上に戴き、  
「時」の天空をはばたく鳥を  
イメージしています。

## クロノス [時の鳥] vol.48 2023.3

C 〈巻頭エッセイ〉  
O 保育のグローバル化  
N 過去に開かれた窓 3  
T 作品のウチソト 3  
E 歴史遺産とジェンダー 3  
N イギリス女性生活誌 48  
T 近代日本音楽史を彩る女性たち 9  
S 子どもの施設養育のパイオニア  
INFORMATION

# 保育のグローバル化―

## すべての大人と子どもを大切に社会に向けて

那須ダグバ 潤子 本学看護学部看護学科准教授

### 外国出身保護者が抱える問題

日本語の読み書きができない配偶者と共に保育所を利用するようになって数年が経った頃、私はあることに気づいた。彼は保育士や保護者と言葉を交わし、一見問題なく保育所を利用しているように見える。しかし送迎以外のことには関わろうとせず、行事や活動にも参加しない。さらに保護者が読まなければならぬ様々な資料は「君が理解できればいいんじゃないか」と手に取ろうともしないのである。

我が家では保育所に関わることは主に父親が担当することになっていったが、何かあれば母親である私に連絡がくる。日本の文化を知らず読み書きもできないのは大変なことであるが、何か違う。育児を行う保護者本人が理解しなければならぬことは、たくさんある。理解できる環境があつてはじめて、親が積極的に保育に参画することが可能となるはずだ。外国出身保護者は、実は保育に参加することを選択できないのではないだろうか、と考えるようになった。ではどうすれば主体的に参加することができるようになるか。そんな身近な疑問から私の新たな模索が始まった。

### 日本の保育現場ではグローバル化・多様化が進んでいる

日本で生活する外国人の人口割合は増え続けており、

子どもにとって、日本社会と深く接する最初の場所となることが多い。特に最初の数年間は保護者の日本語読解能力が不十分である上、日本文化にも馴染みがないことも多い。しかしながら、日本の保育所では多様性を意識した保育実践は少なく、異文化を理解するための具体的実践や取り組みは進んでいないのが現状である。

### 調査してみたわかったこと

二〇二〇年、京都市内の保育所で調査を実施した。外国出身保護者は在留期間に関わらず、全員が日本語資料の理解に困難を抱えていた。保育所から渡される資料は膨大な量で、日本語能力が高くて、何が重要な資料なのか判別できない。手書きの日誌は、スマートフォンで翻訳アプリを使っても読み取ることが難しい。両親ともに外国出身者の場合、親よりも少し日本語が理解できる子どもに助けってもらわざるを得ない。保育所の行事なども十分理解できないなどの現状も明らかになった。

外国出身保護者は、日本では保育士の負担が大きすぎるとも考えていた。このため、保護者側は声をあげにくく、先生もなかなか話しかけてこないという。日本の保育士の配置基準をOECD諸国と比較すると、一人の保育士がみる子どもの人数は最も多く、三歳児で二〇人、四〜五歳児で三〇人である。困ったことがあっても保育現場では対応しきれない状況にあることを、外国出身保護者が一番よく理解しているということであろう。

### すべての親が主体的に 保育に参画できる社会に向けて

子育ては保護者ひとりひとりが

現在では総人口の二%を超える<sup>1)</sup>。これに伴い、保育所を利用する保護者と子どもの背景がグローバル化、多様化していることは、政府も認めるところである。二〇一八年改訂の保育所保育指針に「外国籍家庭など特別なニーズを有する家庭への個別的な支援に関する事項」が追加され、「子どもの国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てる」ことに留意して支援する必要性が明記された<sup>2)</sup>。さらに法務省は、外国人の幼児について、円滑な義務教育諸学校への就学につなげるため「幼稚園、保育所等への入園を促進」すると明記している<sup>3)</sup>。

日本では、一九四七年の児童福祉法ではじめて「保育所」が明記された。保育所は「保育に欠ける」乳幼児を対象とするものとされ、二〇一四年の法改正でようやく「保育を必要とする」に修正された。保育士の配置基準は戦後のままであり、保育の質を問うにはあまりに不十分な状況が続いている。乳幼児期の保育を就学前教育と位置づけ、保護者の保育参加、保育士の専門性向上や処遇改善等により保育の質を向上しようとする世界の流れからは程遠い<sup>4)</sup>。OECD諸国では、保育を受けることは子どもの権利であり、多様な文化背景を持つ人々が保育所を利用する場合は、大人も子どもも母語による通訳利用が可能であるなど、様々な支援制度が整えられている<sup>5)</sup>。保育所は多様な文化背景を持つ外国出身保護者やその

主体的に関わるものである。外国出身保護者は子どもを預ける保育所のことを知らなくて良いわけではない。子どもや他の保護者などに通訳させることも間違っていない。しかしながら現時点では保育現場と個人の努力に委ねられているのが現状である。将来は日本以外にルーツを持つ多くの子どもたちが日本の住民、市民になり、日本の教育を受けて社会で活躍することになる。すべての子どもと大人が生き生きと活躍できる日本社会を創り上げるためには、外国出身者も保育に参画し、共に子どもを守り育てることができ環境を整えることが重要である。

二〇二〇年の調査結果を公表したところ、日本の保育現場における多様性のあり方に関心を持った社会学、医学、看護学、保育学の研究者らが集まり、筆者とともに共同研究を開始することになった。私たちはどのようにこれからの保育を考え、未来を担う子どもたちを育てていくのか。日本社会ではどのように多様性を受け入れ、すべての大人と子どもの権利を守っていくのか。多様な角度から真剣に議論していきたいと考えている。

### 【参考文献】

- 1) 出入国在留管理庁・令和四年六月末現在における在留外国人数について、二〇二二年。
- 2) 厚生労働省・保育所保育指針解説、二〇一八年。
- 3) 法務省・外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策（令和三年度改訂）、二〇二二年。
- 4) 近藤幹生、幸田雅治、小林美希、本田由紀、普光院重紀、川田学、池本美香、後藤英一、寺町東子、濱和哲「保育の質を考える―安心して子どもを預けられる保育所の実現に向けて」明石書店、二〇二一年。
- 5) OECD: Early Childhood Education and Care, 2022.
- 6) OECD: OECD 保育白書―人生の始まりこそ力強く…乳幼児期の教育とケア (ECEC) の国際比較、二〇一九年。



那須ダグバ研究室ホームページ  
グローバル保育パンフレット

# 過去に 開かれた 窓



山内 由賀

本学文学部歴史学科専任講師

3

## 皇后ウジェニーの遺した宝石

一八五三年一月三〇日、ノートル・ダム大聖堂の鐘が鳴り響き、パリは祝祭の雰囲気包まれていた。時の皇帝ナポレオン三世とスペインのテバ伯爵ウジェニー・ドゥ・モンテジヨ（図1）との結婚式が行われたのである。

ウジェニーは、ナポレオン一世に従軍もしたスペイン有数の大貴族、テバ伯爵ドン・シプリアーノを父として一八二六年にスペインのグラナダで生まれた。一八三五年にスペインでは内戦の開始とともにコレラが流行したため、ウジェニーは母に連れられて姉とともにパリへ渡る。パリではヴァレンヌ通りの聖心会の寄宿学校へ入り、その後はイギリスにも移り住んだ。父の死去によってスペインへ帰国したウジェニーはテバ伯爵の称号を継承する

が、一八四九年から再びパリに戻り、ルイ・ナポレオンの従妹であるマチルド・ボナルトのサロンに出入りしていたことから当時大統領であったルイ・ナポレオンと出会った。

ウジェニーがスペイン人であることや、一介の貴族にすぎないことなどから二人の実際には反対の声が多くあがったが、一八五二年に皇帝に即位したナポレオン三世は、議会でウジェニーとの結婚を宣言し、この日を迎えた。ナポレオン三世は四四歳、フランス皇后となったウジェニーは二六歳であった。

生涯を通じて宝石を愛し、芸術の庇護者であったウジェニーだが、婚姻に際しても多くの贈り物が寄せられた。老舗ジュエラー、メゾン・バプストによるルビーと真珠のパリユール（ネックレスやブレスレットなどのジュエリーセット）、後にウジェニーの眞頂のジュエラーとなるアレクサンドル・ガブリエル・ルモニエによるダイヤモンドと真珠のティアアラ（図2）、公文書館の史料に残されたリストには、一八四七年に工房を継承したばかりのまだ新興ジュエラーであったカルティエの宝飾品やエラルのピアノも記載されている。しかし、これらさらびやかな宝石のなかで、今現在も輝く贈り物があつ

た。パリ市から贈られた「首飾り」である。

一八五三年、パリ市はナポレオン三世とウジェニーの結婚を祝するにあたって六〇万フランを支出し、ダイヤモンドの首飾りを贈ることを決めた。しかし、ウジェニーはその予算がさらに良いものに使われることを望み、セーヌ県知事のジャン・ジャック・ベルジェに次のように伝えた。

パリ市議会の寛大な決定には感謝致します。しかしながら、私の名前で行われる最初の公務である結婚式が、パリ市の膨大な出費となるのは心苦しく思います。どうか、贈り物をお断りするのをお許しください。この予算を慈善活動に使われるのであれば、パリ市議会が贈って下さる宝石よりも、私はとても嬉しく思います。私は、私の結婚式が国のお金を浪費する時ではなく、フランスの人々への愛と尊敬を皇帝陛下と分かち合う時間となることを願っております。

この手紙はすぐに市議会へ渡され、市議会は六〇万フランの使い道を以下のように変更した。「議会はテバ伯爵のご心情に深く感動し、彼女の意向を汲んで、皇后陛下のアクセサリーを購入、いまもパリ12区に変わらずウジェニー・ナポレオン財団として存続している。現在では一八歳から二五歳の女性の職業支援のほか、ノートル・ダム修道会の管理による幼稚園からリセまでの特別支援学級も備えた一貫校が併設されている。一八七〇年にフランス第二帝政期が終焉し、皇帝一家はイギリスへと亡命した。一八七三年にナポレオン三世、そして一八七八年に皇太子ルイ・ナポレオンがズールー戦争で亡くなる。ウジェニーは宝石のコレクシヨンを少しずつ手放しはじめ、一九二〇年の彼女の死後、宝石の多くは散逸してしまつた。だが、彼女が生涯大切にしていた「首飾り」は、教育の場として今もパリで輝いているのである。

- 1) *Le monteur universel*, le 27 janvier, 1853.
- 2) *Ibid.*
- 3) LA PEYRIERE, le Comte Gazan de, *L'impératrice Eugénie, sœur de charité*, E. Dentu, Paris, 1867, pp. 32-34.

### 【参考文献】

Madame CARENTTE, *Souvenirs intimes de la cour des Tuileries*, Paris, Paul Ollendorff, 1889.

Marriage de S.M. Napoléon III, empereur des Français, avec la Comtesse Eugénie de Montijo, duchesse de Tèba, Paris, R. Ruel Aîné, 1853.

山内由賀『19世紀フランスにおける女子修道院寄宿学校』春風社、二〇二一年。



図2 ルモニエのティアラ  
(ルーブル美術館蔵)

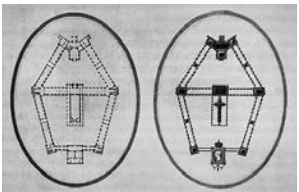


図3 イトルフによる、首飾りをモチーフとした設計図



図1 フランツ・ヴァンターハルターによる肖像画

出典：  
Alison McQUEEN, *Empress Eugénie and the Arts, Politics and Visual Culture in the Nineteenth Century*, Ashgate, Surrey, 2011, p.18

する予定であった六〇万フランを、貧しい若い娘たちが教育を受けることのできる施設を設立するために使用することを満場一致で可決した。この施設は皇后陛下の名と庇護の下、設立される。「こうして結婚時の祝いの記念品は、貧しい娘たちの学校へと姿を変えたのだった。

この施設は、パリ東部のフォーブール・サン・タントワースに王室建築家ジャック・ロイニャス・イトルフによって、首飾りをモチーフとして設計された（図3）。一八五六年に完成し、同年に誕生した皇太子ナポレオン・ウ

ジェーヌ・ルイを記念して「メゾン・ウジェーヌ・ナポレオン」と名付けられた。建物の正面入り口上には、皇后ウジェニーによって設立されたことが明記され、敷地内に建設された聖堂の祭壇壁画には聖母マリアにひざまずくウジェニーの姿も描かれている。

一連の経緯から「首飾りの館 maison de collier」とも称されるメゾン・ウジェーヌ・ナポレオンでは、八歳から二一歳の娘たちが約三〇〇人在籍し、八学年に分かれて読み書き、綴り字、計算の他に宗教を学び、またレース編みか裁縫の職業訓練も受けた。ウジェニーは実際の運営を聖ヴィンセンシオ・ア・パウロの愛徳姉妹会に任せ、学校には頻りに様子を見に訪れ、また皇后自身の予算から各修道女たちに年間六〇〇フランを支給し、さらに、施設の医師、司祭、オルガン奏者、門番、庭師たちにも年間三〇〇フランを支出した。皇后の侍女であったカレット夫人の回想によると、貧しくあるいは孤児であった娘たちはここで安全で清潔な生活を与えられ、教育を受けることができた。娘たちは裁縫や刺繍といった生計を立てることのできる技術を学び、優れた生徒はチュイルリー宮殿のお針子として採用されたという。メゾン・ウジェーヌ・ナポレオンは、

# 女性語の現状——文末形式を中心に——

中崎 崇 本学文学部日本語日本文学科教授

「女性語」といった場合に問題とされるのは、言葉の男女差である。「だわ」「のよ」といった終助詞・文末形式は、話し手の性別に基づく性差である。こういった性差について日本語は顕著な差があるといわれる。一方、現代において「女性語」に限らず、言葉の男女差が若年層を中心に縮小しつつあることはたびたび指摘されており、特に女性側から男性側への接近による男女差の縮小がみられるとされている（尾崎・遠藤、1999）。本稿では、これまでの調査の結果を紹介しつつ、簡単な調査をもとに「女性語」の現状について見ていくことにする。

国立国語研究所が1997年に文末形式の男女差の現状の調査を行っている。その調査結果について報告したものには尾崎・遠藤（1998）、尾崎（1999）（2004）などがある。まずは、これらの報告をもとに、平成

の時代の「女性語」の現状を紹介する。この調査は東京都在住の20代から60代の男女3000人を対象として行われた（調査結果は有効な回答を得られた1013人の回答による）。「女性語」に関わる調査項目としては、文末に現れる形式のうち「だわよ」「降るわよ」といった、女性専用とされる終助詞「わ」に「よ」「ね」が後続する場合、「雨よ」「雨ね」といった助動詞「だ」が省略される場合が取り上げられている。この他、男性専用形式とされる終助詞「ぞ」「ぜ」の使用についても併せて調査されている。具体的な調査項目として選定された語形、質問文の内容、その結果は上掲の通りである（上掲の図はすべて尾崎・遠藤の引用）。これらの形式それぞれについて、親しい友人とうちとけて会話する場合（性差が現れるのがインフォーマルな場面であるという想定のもと）で、自分で

「言う」か、「言わないか」、「わからないか」を回答させている。

調査結果のうち、それぞれについて「言う」と回答した人の比率を示したものが図で示されている。上から4つ目までが女性形式とされるものである。この結果から尾崎・遠藤は、女性形式とされるものについては男性による使用が極めて少なく、使用者はほぼ女性に限定されており、調査時点においては女性のことばであると言えるとしている。ただ、女性であればだれでも皆使っているというわけではなく、「雨よ」「雨ね」「降るわよ」の使用率は5〜6割程度、「雨だわよ」が2割程度しかないことを指摘し、「ダワヨ」の衰退が著しく、「ダ」の省略形の衰退に先行して、「ワ」の付加の衰退が起きていると述べている。さらに、尾崎・遠藤は、終助詞「ワ」を付加しない「降るよ」という形式が、男性ほどではないものの、女性の間でも使用者率が5〜6割程度あることに注目し、この形式が現在では女性にとってもごく普通の表現になっており、「男性語」とは言えない状況であると指摘している。

尾崎（2004）は、この調査とは別に「雨よ」「雨ね」「降るわよ」「雨だわよ」といった女性形式の使用率を年齢層別に調査し、いずれの形式もなっており、これは調査対象者の母方言が関西方言である学生が多いことも影響していると考えられる（本来は調査にあたっては調査対象の母方言も考慮すべきであるが、今回はその点は考慮できていない）。

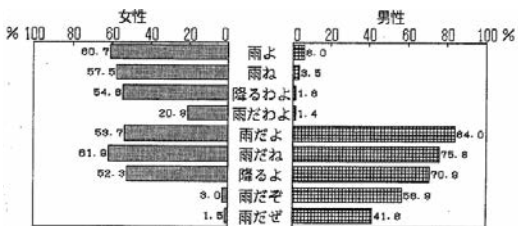
ただ、母方言の影響を考慮したとしても「よ」を含む「降るよ」といった接続の使用率の高さを考えると、平成の調査で指摘されていた女性語の衰退（使用者が女性であることを積極的に示す形式を使うことをやめる）が、少なくとも文末形式においては、令和の時代においても加速しているといえる。さらに今回の調査では男性専用の形式である「だぞ」といった接続の使用率が24.4%とこれまでの調査に比べて高くなっており、これは積極的な女性側から男性側への接近による男女差の縮小がおこってきていることを表す結果といえる。

### 【参考文献】

- 遠藤織枝「女性語・男性語」日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版、二〇一八年。
- 遠藤織枝・尾崎喜光「女性のことばの変遷——文末・コト・テヨ・ダワを中心に——」日本語学 17巻5号、明治書院、一九九八年。
- 尾崎喜光「女性語の寿命」『日本語学』18巻9号、明治書院、一九九九年。
- 尾崎喜光「日本語の男女差の現状と評価意識」『日本語学』23巻6号、明治書院、二〇〇四年。

単位:%

形式	使用者数/全体	使用者率
あした雨よ。	13/45	28.8
あした雨ね。	7/45	15.5
あした雨降るわよ。	3/45	6.6
あした雨だわよ。	0/45	0
あした雨だよ。	29/45	64.4
あした雨だね。	41/45	91.1
あした雨降るよ。	43/45	95.5
あした雨だぞ。	11/45	24.4
あした雨だぜ。	2/45	4.4



あした、親しい友達とハイキングを予定していたとします。あなたがテレビで天気予報を見て、たとえ、残念ながらあしたは雨になりそうです。そのとき、電話や友達に伝えたとき、次の言い方はあなたに言いそふでしょうか？

- あしたは雨だよ。
- あしたは雨ね。
- あしたは雨降るわよ。
- あしたは雨だわよ。
- あしたは雨だよ。
- あしたは雨だね。
- あしたは雨降るよ。
- あしたは雨だぞ。
- あしたは雨だぜ。

若年層になるほど使用者率が急激に低下する傾向が明確に認められることを報告している。また男女差の現状、特に「女性語」の現状について、使用者が女性であることを積極的に示す形式を、若年層を中心に使うことをやめ、こういった女性側での言語使用の変化に基づいて男女差の縮小が起きていると結論づけている。

以上の尾崎・遠藤などで報告されているのは平成の時代の女性語の現状である。ここから筆者が調査した内容をもとに令和の時代の女性語の現状について述べていくことにする。

調査内容は、上述の国立国語研究所の調査とほぼ同じである。調査項目は「あした雨よ」のように助詞「は」の省略を行っているが、その点以外は同じである。また質問文を「あした、親しい友達とテーマパークに出かける約束をしています。あなたがスマホで明日

の天気予報を調べると、残念ながら明日の子報は「雨」となっています。そのことをその友達に伝えるとしたら、あなたは、次の言い方をしそふでしょうか？」とし、現代にあうように若干の変更を加えている。調査対象は関西圏の大学に在学する女子学生45名である。調査結果は上掲の通りである。まず、目につくのが終助詞「わ」と「よ」の接続である「降るわよ」「雨だわよ」の使用率の低さである。「降るわよ」は使用者がわずか3名しかおらず、「だわよ」に至っては使用者数が0人であり、この調査から「だわよ」といった接続は衰退ではなく、若年層においては死語となってしまうといえる。「ダ」の省略形である「雨よ」「雨ね」についても、それぞれ使用者率が28.8%と15.5%となっており、国立国語研究所の調査と比べても著しく使用者率が低下しており、「ダ」の省略形についても衰退が進んでいることがわかる。それに呼応するかたちで、従来主に男性が使っていた形式である「雨だね」「雨降るよ」といった無標の形式の使用率についてもどちらも90%を超えており、尾崎で言及されている調査とほぼ同様の結果となっている。ただし、「雨だよ」の使用率が64.4%と先の調査よりは低い値と

# 『平安人物志』と女性文人

有坂 道子

本学文学部歴史遺産学科教授

人方の姓名・字・号・所書・俗称等まで委しく記す」と記される通り、必要最低限の情報がシンプルに記載されている。版を重ねるごとに徐々に部立てを広げ、収録人数を増やして内容を充実させ、京都の著名な学芸人が一覽できる人名録としてその役割を果たすようになった。学芸を志して実際に京都へ上る者だけでなく、その時々々の京都の学芸状況を概観できる便利な情報源として、多くの人に利用されたと考えられる。

初版から三版(天明二年(一七八二)刊)までと、四版(文化一〇年(一八三三)刊)以降の版とでは内容構成に違いが見られるが、初版で一三〇名余りであった収録者の実数は、嘉永五年(一八五二)の八版では七〇〇名を超えている。

しかしながら、初版に収録された女性はずかに三名、「書家」の部に出る「渤海氏、名麗華、渤海春吾娘」と、「画家」の部に出る「玉蘭女、池無名妻、祇園下河原」、そして「篆刻者」の部に出る「伊与女、尚古館女、押小路寺町角、佐助娘」のみである。

このうち書の麗華は、儒者で書家の渤海北門(春吾)の娘であり、後の版によって通称は貞、渤海茂兵衛の母



『平安人物志』嘉永5年版(国文学研究資料館所蔵)

『平安人物志』は、江戸時代中後期の京都で名が知られた文人を、学芸分野ごとにまとめた人名録である。初版は明和五年(一七六八)に刊行され、学者・書家・画家・篆刻者・卜筮者・相者(人相見)の部立てで一三〇名余りが収録されている。需要が高かったようので、初版以降、慶応三年(一八六七)に最後の版が刊行されるまで、約一〇〇年の間に九回の版を重ねている。

編者は、全ての版が「弄翰子」という同一のペンネームとなっており詳細不明だが、そもそもは他国から京都へ遊学する者が、訪ね先の見当をつける際の助けとなるよう企画されたもので、本の扉に「この書は京都の学者方・雅

『平安人物志』二版(安永四年(一七七五)刊)では、初版収録の三名に加え「書家」の部に「河村氏、名如蘭、寺町押小路下ル町、河村氏女」が挙がる。通称は歌といい、河村佐右衛門の娘であることが三版から知られ、住所を見る限り、篆刻家の伊与と近い場所に住んでいたようである。

三版では、新たに「画家」の部に「奥田氏、名来禽、源美蓉妻、衣店竹屋町下ル町、蘿井」が加わる。来禽の夫である源美蓉は、篆刻家として高名な

で、居所は大宮今出川下ル町であることがわかる。篆刻の伊与は、篆刻家片山渤海(佐助)の娘で、字を鉄篆、尚古館と号し、中井敬所の『日本印人伝』(一九一五)によれば、篆刻だけでなく、蘭竹を描き、つねに漢語で対話したという女性であった。

三名の中で人物が最もよく知られるのは画の玉蘭(玉瀾)であろう。玉瀾は、池無名(ありな)、すなわち南画家として著名な池大雅の妻である。享保十二年(一七二七)に祇園の茶店松屋に生まれ、父の姓は徳山、通称は町(町子)といった。祖母の梶・母の百合は歌人として歌集も刊行するほどで、玉瀾も歌に親しみ、後年には大雅とともに歌人冷泉為村の教えを受けている。

画の手ほどきを受けたとされるのは、大和郡山藩の重臣で南画家の柳沢淇園(柳里恭)で、淇園から別号「玉桂」の一字を与えられて玉瀾と号した。四歳年上の大雅といつ結婚したのかはつきりとはしていないが、おおよそ二十代半ばごろと考えられており、結婚後は大雅に画法を学んで作品を制作するようになる。やがて玉瀾の画家としての知名度は上がっていき、『平安人物志』に採録される実力を備えるようになった。

氏、あるいは〇〇氏室や〇〇氏母として収録される女性が増えていく。「付録」の位置づけながら、独立した部が立てられたことはそれまでの版と異なる点である。その「女流」の部には、大田垣蓮月のように歌人として著名な女性が見られる一方、今では経歴を明らかにならない女性も散見される。このことは、家族や師の理解なり後押しがあつてその才能を伸ばし、評価を受ける女性が、一九世紀の京都に広く生まれてきていることを示すものといえる。

【主要参考文献】

- 森統三・中島利壽編『近世人名録集成』她誠社、一九七六―七八年。
- 『特別展 池大雅 天衣無縫の旅の画家』京都国立博物館、二〇一八年。
- 木下京子「池玉瀾の画業の一考察」『慶應義塾大学日吉紀要(人文科学)』三、二〇〇八年。
- 中村玲「奥田(大島)来禽筆『清溪垂釣図』について」『実践女子大学香雪記念資料館館報』一四、二〇一七年。
- 福島理子「女性の漢文」河野貴美子・Wakabe DENBUKE・新川登竜男・陣野英則・谷口眞子・宗像和重編『日本「文」学史』第二冊、她誠出版、二〇一七年。
- 柯明「江戸女性漢詩の出現―その「育成」に関する一考察―」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』六七、二〇二二年。

## 第48回

●連載●イギリス女性生活誌  
デイストリクト・ヴィジティンダ  
への労働女性の関与

松浦 京子

京都橘大学名誉教授

前回、一九世紀の労働者階級のレジェンド・ウーマン、すなわち「知られてはいないけれども確かに存在した、または彼女たちに続いた多くの女性たちを象徴させることができる存在、つまり、彼女たちを通して時代の動きを物語るることができる存在」を見つけ出し語ることを始めた。手始めとして「ランヤード・ミッション」のバイブルウーマンとバイブル・ナースの活動例に触れた。一九世紀の注目される社会活動として中流階級女性の慈善が知られているが、そうした活動の中心であるデイストリクト・ヴィジティンダとして特記される組織の家庭訪問の実際のな部分を担った女性は、実は慈善篤志組織に雇用された労働者階級であることに注目したからである。

労働者階級女性が担った家庭訪問の実働部分は、中流階級女性による組織化や指揮監督部分に比べてあまり注目されてこなかった。そのうえ、中流階級女性の公的社会進出の動きのなかで実際の訪問活動も徐々に、中流階級女性に相応しい「有意義な仕事」と捉えられていき、二〇世紀を迎えると社会福祉の専門職として成立することとなった。だが、それは、かつて労働者階級女性が担った活動そのものの価値、社会的意義が認められたからである。そして、中流階級女性が職業として実働部分に進出したとしても、それは一方では、労働者階級女性にも専門職進出の突破口を与えたのである。二〇世紀前半に看護師やヘルス・ヴィジターとして活躍した女性たちの手記が、前世紀転換期に進められた初等・中等教育の拡充などの社会政策を背景に労働者階級女性の社会上昇が起こったことを示しているからである。



風刺画雑誌『パンチ』誌(5-3-1884)に掲載されたレディ・ヴィジター図(一部省略)  
牧師に伴われてスラムを訪れたが歓迎されてはいない様子を描いている

このような過程をたどることとなるデイストリクト・ヴィジティンダの女性活動であるが、まずは、その始まりの部分に目を向けることから始めたい。

デイストリクト・ヴィジティンダは、その名のとお

り救護の対象者のもとを訪問することである。多くの場合、ヴォランタリ組織によって組織されるもので、一定地域を街区に分け、その街区担当者を定め、貧民家庭を定期的に訪問し、必要とされているものを提供する活動である。こうした組織の定期的訪問の起源がいつかはかならずしも分明ではないが、原初形態としてしばしば言及されるのが、メソデイズム運動の一環としてのジョン・ウエズリの僚友たちや一七八五年結成の『寄る辺無き人の友協会』の活動である。そして一九世紀に入りグラスゴウの牧師T・チャーマーズによって、教区を二五の地区に分け各地区には訪問とケア提供を担当する者を任命するという基本形式が創り出された。以後、教区教会で牧師の指揮のもとに妻や娘、教会役員が貧民家庭を訪問することが日常化していき、それを軸として定期訪問を主要な活動とする慈善組織が、教会の関与、独立したヴォランタリ組織であることを問わず全国に広がり、一八三〇年代以降、加速度的に質量ともに増加した。

こうした一九世紀半ばまでのヴィジティンダ組織が提供するケアとは、具体的には無償もしくは有償の聖書、小冊子、毛布、食料、石炭（燃料）、ケットなどの物品であり、同時に、（精神的）慰めの言葉であった。また、貧民の状況把握（情報収集）も重要視されており、そうすることで当座の状況の改善と、究極的には魂の救済というケアの実現をめざしていたのである。しかし、一九世紀後半になってくると、より世俗的で多彩な活動目的を掲げるヴィジティンダ組織が誕生していった。訪問対象者をそれぞれ病人や障害者、妊婦、炭坑夫、水夫、囚人などに限定した組織や一般労働者家庭を対象とした禁酒や家庭衛生の啓蒙といった生活一般の向上を目的とする組織が登場するなど、ケア内容の多様化が進んだのである。その結果、博愛活動史研究家のプロシヤスカ言うところの「訪問活動をする組織は無数と言ってよいほどに存在しロンドンではこれらの組織の目を逃れうる家庭はほとんど無かった」という状況に至った。

そして、初期には実際のヴィジティンダの担い手は男性であったのが、ケ

ア目的の多様化とともに女性が中心的担い手となっていった。一九世紀半ばには女性の訪問者が男性のそれを二倍から三倍上回るようになったと推定されている。また、女性自身が立ち上げ運営する組織の活動も拡大した。この増加は、ヴィジティンダという活動の特質、すなわち家庭という私的空間に入り込む行為そのものに女性を有用ならしめ、その活躍を促す要因が含まれていたからである。

そのうえ一九世紀半ば以降活発化した女性のヴィジティンダ活動には、ケア提供と状況把握だけに留まらず、訪問先の労働者家庭の妻や母親との交流を重視するという新たな特徴が現われてくる。それは、一九世紀前半までとは異なり、労働者階級一般を対象として知識や情報ひいては觀念の伝達を図り、啓蒙教化によって彼らの生活そのものの改良を目指すことが目的となっ

たからである。つまり、生活習慣の改善に主眼を置いて普通の労働者家庭の妻や母親を対象として行う訪問では、改善すべき点やそのやり方などを具体的に親しく伝え教えることが必須となり、そのために女性同士の言葉の交換、語り合いを通じての啓蒙教化が重要視されるようになっていったのである。

ここまで述べれば、女性ヴィジティンダ組織が労働者階級女性を専従の訪問員として活用するようになった理由がおのずと判明するであろう。つまり、啓蒙教化を目的とするがゆえに究極において訪問対象家庭の人、すなわち妻や母との親密な関係性の構築が必要であり、そのためにはレディ・ヴィジターと呼ばれる中流階級女性という外部者ではなく同じ街区に住む同じ階級の女性でなければならぬとされたのである。この意図のもとに、ランヤード夫人によって一八五七年に始められた「聖書と家庭に関する女性ミッション」（通称ランヤード・ミッション）が、労働者階級女性を雇用して聖書を携えて訪問するバイブルウーマンとし、のちにはバイブル・ナースを生み出したのであった。そして、これは他の組織によっても模倣されていった。労働者階級女性によるデイストリクト・ヴィジティンダの始まりであった。



# 近代日本音楽史を 彩る女性たち

## 最初の国際的 プリマ・ドンナ 三浦環(その2)

佐野 仁美

本学発達教育学部  
児童教育学科教授

シンガポールから戻り、医学者の三浦政太郎と正式に結婚した三浦環(一八八四―一九四六)は、一九一四(大正三)年に夫とともに憧れの洋行を果たす。当初、リリー・レーマンに習うためにベルリンに行ったが、ドイツがイギリスと開戦したためロンドンに逃れた。日英同盟により日本がドイツに宣戦布告したのはすぐ後である。二〇世紀を代表する指揮者の一人であるサー・ヘンリー・ウッドから素質と技術を認められた環は、後にイギリス首相となるチャーチルの母より恤兵音楽会(軍隊や兵士への寄付を募る音楽会)で日本の歌を歌うように依頼され、一〇月二四日にアルバート・ホールで

ジョージ五世や王妃の前で日本の《さくらさくら》《蜜》とヴェルディの《リゴレット》から《慕わしき御名》を歌った。そこで環は、日本では《殖生の宿》として知られる《ホーム・スイート・ホーム》を歌った往年の名歌手、アデリーナ・パッティの芸術の境地に感銘を受けた。この演奏会で環は一躍有名になり、日本にもその様子が伝えられたのである。

その環に、一九〇四年に初演されたばかりのプッチーニ作曲《蝶々夫人》の出演依頼が舞い込む。環は、幼少から身につけた踊りの身振りや、結婚式で振袖に白い打掛を着て三々九度の盃を交わすといった日本の風俗を取り入れた。そして、西洋人から見ても自然にならないように着物の帯を平たく結び、二五歳の子どものほい蝶々さん、夫を待つ一八歳の蝶々さんを演じ、愛児と別れ自害する蝶々さんの母性愛と悲しみを表現した。一九一五年五月三十一日のロンドン・オペラ・ハウスで日本人がタイトル・ロールを演じる《お蝶々夫人》の上演は、非常な注目を集めた。《蝶々夫人》が評判となった環は、ボストン・オペラ・カンパニーの招聘により渡米し、ニューヨークやボストンなどで華々しい活躍を繰り広げ、ロンドン大学で研究していた夫はコロンビア

大学に移った。

環は、サンフランシスコやロサンゼルスなど全米各地で《蝶々夫人》を演じ、一九一七年にはコロムビア社で日本の歌とともにレコード吹込みも行う。一九一八年には赤十字に招聘されて、メトロポリタン・オペラハウスで有名なテナー歌手のカルーソと同じ慈善音楽会に出演した。一九一六年のシーズンには吉原を舞台にしたマスカリーニ作曲のオペラ《イリス》を歌い、一九二〇年にはメサジェが作曲した《お菊さん》の米国初演も行った。

同年にイタリア巡業中の環に会った藤原義江は、ローマの公演は特にものすごい人気で、「三浦環来たる」と各新聞は写真入りで一斉に書き立て、ボックスはほとんど外交団でうずめられるという華やかさだったと回想している。ただしこの時は、プッチーニの要求する「お蝶さん」をか弱い日本婦人に求めるのは酷であるという批評が多かったらしい。ローマで《蝶々夫人》を鑑賞したプッチーニは、環を山荘に招待し、もつとも理想的な蝶々さんと讚え、オリジナリティを失わないようにと話した。プッチーニの部屋は花瓶や錦など、日本の調度品で飾られ、日本の音楽を研究していたプッチーニから日本の歌をリクエストされた環は、義

《蝶々夫人》  
リコルディ版 ヴォーカル・スコア表紙



太夫の『三十三間堂棟由来』より《木遣り唄》を歌ったという。

《蝶々夫人》は、アメリカ人のロングが滞日経験を持つ姉の話にヒントを得て書いた短編小説が原作である。その後、ニューヨークで好評を得たベラスコの戯曲をもとに、イタリア人のジャコーザとイタリアが台本を書いた。絵画と同じく一九世紀のオペラには、しばしば異国趣味が描かれ、ジャポニスムに沸く一九世紀末には、サリヴァンのオペレッタ《ミカド》(一八八五)や《イリス》(一八九八)など日本を題材にしたオペラが作られた。フランス人海軍士官として滞日したロティの小説をもとにした《お菊さん》(一八九二)は、開国後の日本にやってきた西洋の軍人の都合で置き去られる現地妻を描いた点で、《蝶々夫人》と共通している。《蝶々夫人》では、恋愛の破局のみならず、自己犠牲を伴う親子の愛情が描かれる。異国

情緒にあふれた恋愛を普遍的なテーマに高めてドラマを盛り上げ、美しい旋律がちりばめられているからこそ、《蝶々夫人》は人気の演目として

残っているのだろう。プッチーニは、イタリア公使大山綱介の夫人から日本音楽の資料を入手し、《さくらさくら》《お江戸日本橋》《越後獅子》などの旋律を挿入して、日本的な情緒を醸し出している。

環の《蝶々夫人》はどのように受け取られたのだろうか。一九一五年一月二七日の『読売新聞』は、「日本の女流音楽家が本統の芸者に扮するというので好奇心をそそっている所へ、感動を与えずには置かぬあの音声といたいたしい程可愛らしいあの姿に奇異な綺麗な着物を着た女史の所作表情とが、聴客を魅了してつた」と伝える。絵画や工芸のジャポニスムのイメージの一つに「小さくて細かいもの」が挙げられ、それは女性のイメージに通じる。東洋への憧れと日本の習俗への興味に加え、小さな環の可愛い容姿と声の表現、衣装や所作などに人々は惹かれたのだろう。環は蝶々さんの性格を深く読み込んで、日本人ならではの細かい役作りの工夫をし、西洋人にも納得される蝶々さんを表現し得たのである。

ちなみに、彫刻家イサム・ノグチの父で詩人の野口米次郎は、一九一九年二月二六日の『東京朝日新聞』の「三浦環夫人流石は芸人だ」という記事で、見事な声で自然につり込まれて涙

を覚える舞台と報じている。その前のシカゴ大学におけるレセプションで、一四、五歳の少女が喜びそうな大柄な模様の衣装を着ている肥えた環が、野口には一種異様に感じられた。野口は、よくも米国で流行する贋日本趣味に適合するように自分を改造せられたものだとも感服し、米国人の贋日本趣味に添って初めて舞台上に於ける成功が得られることを了解した。アメリカで環は、毎日のようにグレイプフルーツと大量のティーポーンステーキ、一羽分の鶏を食べていたという。西洋のオペラ歌手に負けない体づくりをして、日本人の気持ちと姿をオペラに調和させようと振る舞い、環の印象は変化した。野口の言葉にあるように、「芸人」と見られてしまうことが、後の日本における環の立場を複雑にしている(以下次号)

### 【主要参考文献】

大石みちこ「奇跡のプリマ・ドンナ―オペラ歌手・三浦環の「声」を求めて」KADOKAWA、二〇二二年。  
田辺久之「新版考証 三浦環」幻冬舎、二〇二〇年。  
早川牧子「英国の三浦環―電子新聞アーカイブをもとに一九一四―一九一五年の受容調査」『東京音楽大学研究紀要』第四二巻、二〇一九年、157―175頁。  
吉本明光編「お蝶夫人―三浦環自伝」『世界の人間像』第二巻、角川書店、一九六一年。





# 子どもの施設養育のパイオニア

## バーバラ・ドッカー・ドライステイルと マルベリー・ブッシュ・スクール

内本 充統 本学発達教育学部児童教育学科教授

親と暮らせない子どもは、いつの時代にも、どの社会にも存在する。こうした子どもをどのように育てるかという課題について、入所施設は早くから対応方法の一つとなってきた。イギリスでは公的な資金を用いた入所施設での子どもの養育が一六世紀に開始された。以来、公立、民間の入所施設による様々な試行錯誤が行われ、子どもの施設養育に関する制度や実践が蓄積されてきた。

イギリスにおける施設養育の長い歴史をひもとくと、その中に数多くの女性実践者が名を連ねている。本稿で取り上げるバーバラ・ドッカー・ドライステイル (Barbara Docker-Drysdale:1912-1989) 以下「ドライステイル」と表記) もその一人である。一九四八年、彼女はマルベリー・ブッシュ・スクール (Mulberry Bush School) 以下「マルベリーブッシュ」と表記) を創設し、トラウマを体験し情緒的な問題を抱える子ども達との実践を、後に著作『Therapy and Consultation of Child Care』としてまとめた人物である。

ドライステイルは、第二次世界大戦中にオックスフォードの自宅で保育所を開き、疎開してきたロンドンのイーストエンド出身の子どもを受け入れていた。彼女はその中に、情緒的な問題を抱えた子どもが多いことに気づき、劣悪な環境の生活を送るための力をつけていく。

筆者がドライステイルとマルベリーブッシュを知ったのは、一九九五年頃のことである。イギリスでは既に親と暮らせない子どもの養育は里親委託が主流となっていた。入所施設は、里親への移動を待つ子どもや、里親による養育の失敗により行き場を失った子どもたちの最後の砦として位置づけられていた。入所施設を利用する子どもの数も漸減し、ついには公立の入所施設を廃止する地方自治体も出てきた。こうした入所施設廃止の動きに抗するために、施設養育の有効性を再認識しようとするムーブメントが活発化した。この時期に注目された入所施設の一つがマルベリーブッシュだったのである。

オックスフォード近郊の村にあるマルベリーブッシュは、イギリスらしい豊かな緑に囲まれ、いくつかのコテージが立ち並ぶ定員二十名の入所施設である。しかし、施設内には全く別の景色があった。学校からも福祉施設からも受け入れを

影響を受け精神的にダメージを負った子どもの養育に関心を持った。そこで、児童精神分析家のアナ・フロイドや児童精神科医のドナルド・ウィニコットの理論を学び、マルベリーブッシュでの子ども達への施設養育を開始した。ドライステイルは「凍り付いた状態 (Frozen)」「統合されていない状態 (Unintegrated)」等の独自の定義を用い、入所施設での治療的養育を発展させた。

マルベリーブッシュの創設は、イギリスにおいて心理学や精神分析学を取り入れた施設養育が注目された時期と重なっている。この時期、非行、不適応などにより、地域での養育が困難となった子どもを受け入れる「セラピューティック・コミュニティ (Therapeutic Community)」と呼ばれる施設がイギリス各地に誕生した。セラピューティック・コミュニティはそれまでの施設養育を大きく転換した。子ども達は「貧困児童」としてではなく、一個人としてみなされた。子どもと職員との関係構築が重視され、個別の心理療法や、子どもが自信を持てるような経験が提供された。共同体としての意識を高めるためにあえて外部社会との交流を制限し、「計画された環境での治療 (Planned Environment Therapy)」によって、子どもの社会的、精神的、そして教育的ニーズを満たす拒否され、幾重にもなる心の傷を負った子ども達のエネルギーは破壊的である。こうした子ども達が再び地域で生活できるようになるまで、教育やケアを行う職員は相当な忍耐力をもって子ども達にかかわっていく。マルベリーブッシュには、イギリス法務省の職員が嵐の通り過ぎたような様子に腰を抜かした、という逸話も残っているほどである。

一方、マルベリーブッシュの実践には、日本の施設養育には見られない数多くの特徴がある。例えば、子ども達の宿舎の居間や階段には、マルベリーブッシュで生活したすべての子ども達の写真が飾られている。子どもの破壊行動による家具や壁の破損は、専門のスタッフによって即座に修繕される。さらに、スタッフは子どもの三倍程度の人数が配置されている。こうした実践や仕組みに、子ども達に対するドライステイルのまなざしを感じる事ができる。それらは、施設養育において子どもを大切にするとどのようなことかを再考するためのヒントでもある。

ドライステイルをはじめ、イギリスの民間福祉施設の創設者にはカリスマ的な魅力と備えた人物が多い。しかし、創設者の没後、その理念や実践を引き継ぐ者がおらず、施設自体が消滅してしまうケースも少なくない。こうした中で、ドライステイルのユニークな理論と実践は現在もマルベリーブッシュに引き継がれており、イギリス国内だけでなく、ヨーロッパ諸国でも高く評価されている。筆者の関心は、ドライステイルのような施設養育のパイオニアを輩出したイギリスの土壌、そして、施設養育に対する強い逆風の中でも、長期にわたる実践を継続可能にした仕組みに向かっている。

### 【参考資料】

Docker-Drysdale, B. *Therapy and Consultation in Child Care*. London, Free Association Books, 1993.  
Mulberry Bush School ホームページ <https://mulberrybush.org.uk/>



マルベリー・ブッシュ・スクールの外観



壁に飾られた子ども達の写真  
(写真はいずれも筆者撮影)



# 「歴史の中の女性を読み直す—女性史研究のいま—」

女性歴史文化研究所は2022年度で創設30年を迎えました。この30年の間に女性史研究は着実に成長を遂げ、歴史や社会において女性が果たしてきた役割や意義について、多くの研究成果を生み出すとともに、社会に新たな視点を提供してきました。今回のシンポジウムでは、西欧ならびに日本におけるここ半世紀の女性史研究の軌跡をたどるとともに、本研究所が果たしてきた役割についてあらためて振り返ってみたいと思います。

テレビや新聞で女性やジェンダーをめぐる議論を目にしない日はありません。女性史研究の意義とはなにか、みなさんと一緒に考えたいと思います。

日時

2023年 **6月10日(土)** 13時00分～16時30分

会場

**キャンパスプラザ京都** JR[京都駅]中央口より徒歩約5分(ビックカメラJR京都駅前)

講師

**細川 涼一** (京都橘大学名誉教授/元学長)

**渡邊 和行** (京都橘大学文学部歴史学科教授)

コメンテーター

**西野 悠紀子** (女性史研究者/女性史総合研究会委員)

司会・コーディネーター

**野田 泰三** (京都橘大学女性歴史文化研究所所長/文学部歴史学科教授)

\*肩書きは2023年3月時点のものです。

<受講料> 無料 <定員> 250名 \* 4月10日(月)より先着順にて受付

<申込方法> 本学HPの申込フォーム(右記二次元コードからアクセス)・E-mail・電話・FAXにて受付。

①講座名 ②氏名(漢字・フリガナ) ③郵便番号 ④住所 ⑤電話番号を添えてお申込みください。

複数名でお申込みの場合は、全員分のお名前をお知らせください。

<申込・問合せ先>

京都橘大学 女性歴史文化研究所(学術振興課)

TEL. 075-574-4186(直通) \* 受付時間 9:00～17:00(土日祝を除く)

FAX. 075-574-4149 E-mail aca-ext@tachibana-u.ac.jp



## LIME 通信

女兒の人気アニメ『プリキュア』ではこの春、シリーズ初の“青”をキャラクターカラーとする主人公が登場しました。「ヒロイン」ではなく「ヒーロー」と設定した作品テーマからも、ジェンダーレスな時代背景が感じられます。これまでもジェンダーレス男子やハーフ女子のプリキュア戦士誕生など、性や国籍、家族や生き方の新しい価値観が投影されてきました。男児向けの戦隊シリーズや仮面ライダー作品でも同様で、また玩具市場においてもジェンダーロールにとらわれない傾向が見て取れます。

今年4月、子ども政策を一元的に担う「こども家庭庁」が発足します。岸田首相は年頭の記者会見で「異次元の少子化対策」という表現で、急激に加速する少子化に向けて政府の本気度

を示しました。しかし、“経済支援”、“子育て家庭向けサービスの拡充”と並び具体策とした、“働き方改革推進”では依然として課題が山積しています。先進国ではジェンダーギャップが縮まるほど出生率が上がると言われ、女性の社会進出には男性の育児休業取得率向上といった、仕事と家庭の両立のための土台づくりも必要です。

いままでも英単語ではheroの単なる女性形であったheroineが、日本語ではヒーロー=守る者、ヒロイン=守られる者といった社会的、文化的な性差の意味が無意識に含まれてきたのではないのでしょうか。こうしたアニメが、固定観念や先入観にとらわれない幼児期のジェンダーアイデンティティ形成、さらには将来の男女協働へのヒントとなるのかもしれませんが(西野)。

CHRONOS(クロノス) vol.48

発行日: 2023年3月

発行: 京都橘大学 女性歴史文化研究所

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34

Tel.075-574-4186 Fax.075-574-4149

E-mail: iwhc@tachibana-u.ac.jp



京都橘大学  
女性歴史文化研究所